

# 2019年度第1四半期 決算報告

日産自動車株式会社  
2019年7月25日

NISSAN MOTOR CORPORATION



## AGENDA

➡ 2019年度 第1四半期実績

事業改革について

# 2019年度第1四半期の総括

## 販売実績

グローバル販売台数は前年比6.0%の減少となり、6.8%減の全体需要を上回った

(千台)	18年度 第1四半期	19年度 第1四半期	対前年 同期比
全需	24,135	22,498	-6.8%
販売台数	1,310	1,231	-6.0%

全体需要を上回る伸びを達成した地域

- ・ 中国 (日産 +2.3%、全需 -11.9%)

全体需要を下回った地域

- ・ 米国 (日産 -3.7%、全需 -1.5%)
- ・ 欧州 (日産 -16.3%、全需 -2.3%)
- ・ 日本 (日産 -2.6%、全需 +2.8%)

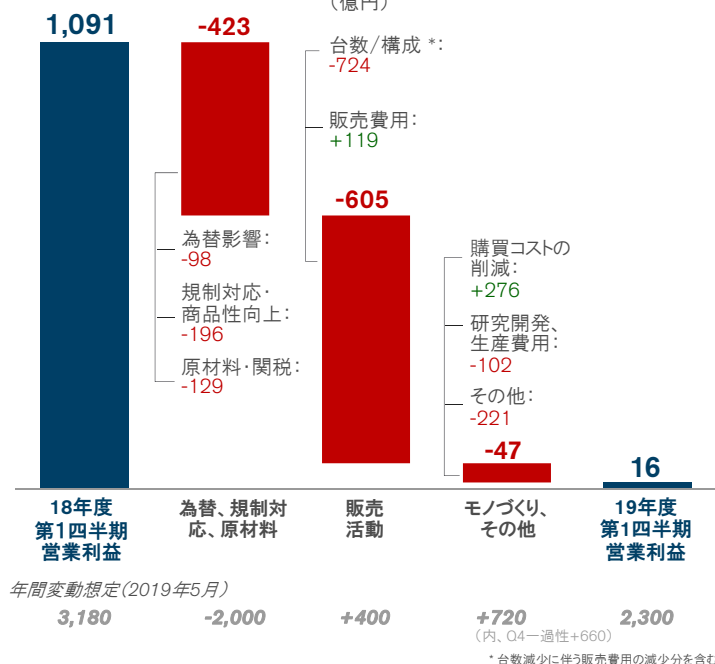
販売実績 (除く中国)

(千台)	18年度 第1四半期	19年度 第1四半期	対前年 同期比
全需	17,347	16,515	-4.8%
小売台数	973	887	-8.8%
卸売台数	903	781	-13.5%

卸売台数を小売台数以下におさえたことにより、更なる販売会社在庫の適正化を達成

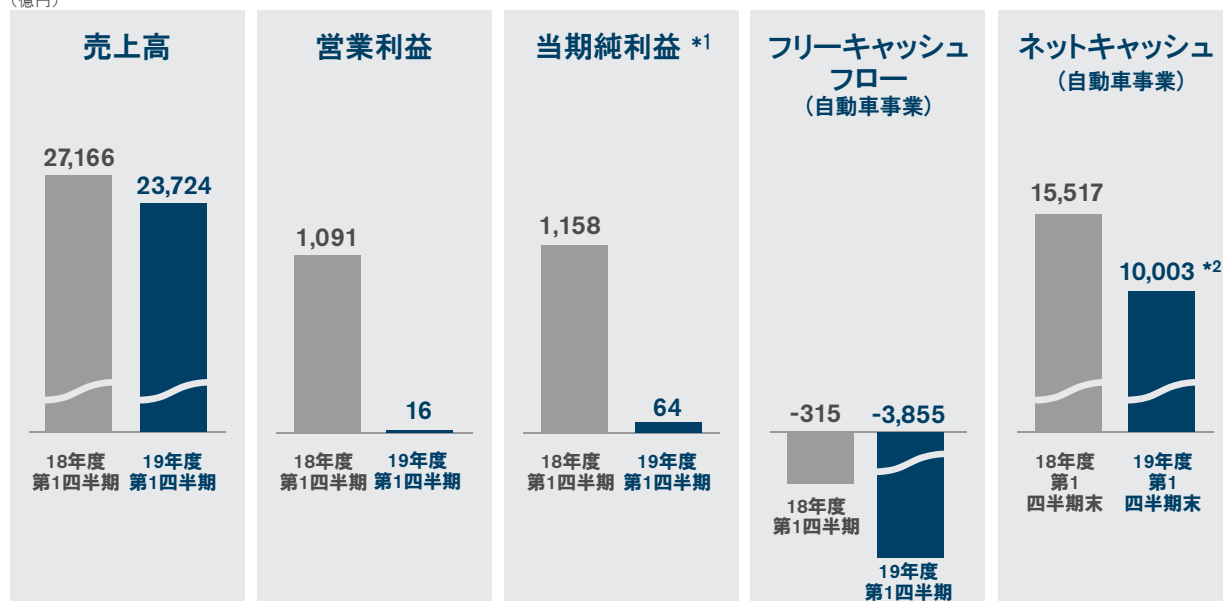
## 収益

### 第1四半期 営業利益増減分析 (億円)



# 2019年度第1四半期 主要財務指標 (東証届出値-中国合弁会社持分法ベース)

(億円)



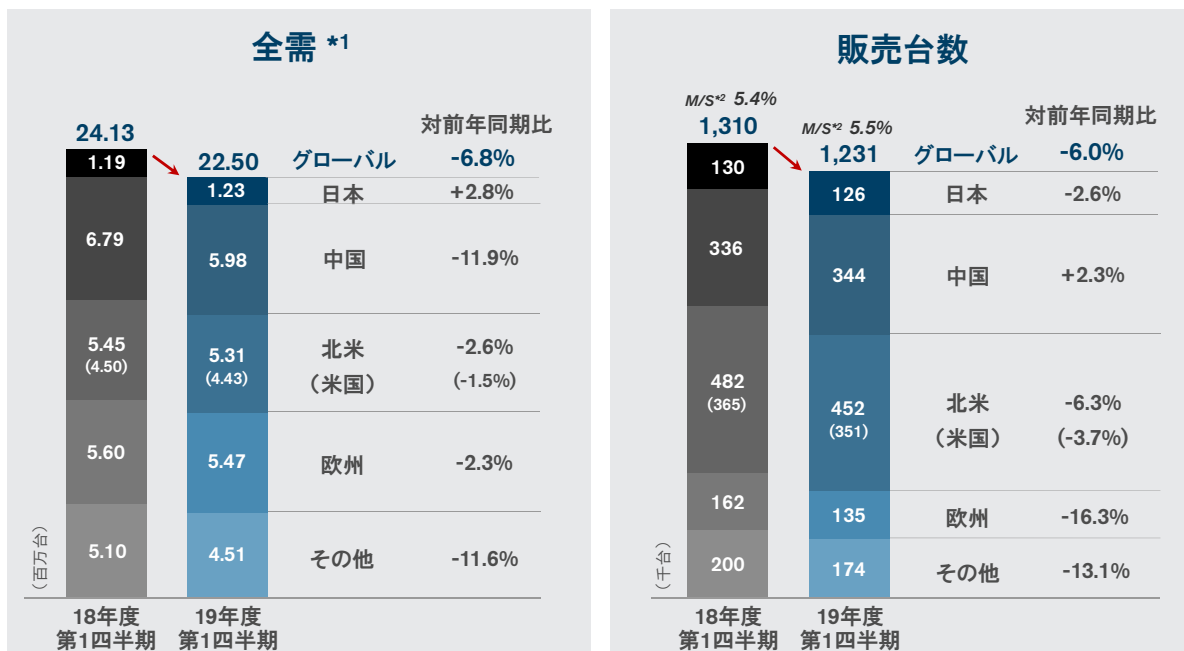
中国合弁会社比例連結ベース:

第1四半期	18年度	19年度	第1四半期	18年度	19年度	第1四半期	18年度	19年度	第1四半期	18年度	19年度
第1四半期	30,299	26,671	1,544	401	1,158	64	-154	-3,889	18,128	13,114	

\*1: 親会社株主に帰属する当期純利益

\*2: 会計基準変更による影響額 -825億円を含む

# 2019年度第1四半期 販売実績 グローバル



\*1: 日産集計値  
\*2: 市場占有率

# 2019年度第1四半期 販売実績 主要市場



# 2019年度第1四半期 財務実績

(東証届出値-中国合弁会社持分法ベース)

(億円)	18年度 第1四半期	19年度 第1四半期	増減	対前年同期比
売上高	27,166	23,724	-3,442	-12.7%
営業利益	1,091	16	-1,075	-98.5%
営業利益率	4.0%	0.1%		
営業外損益	498	337		
経常利益	1,589	353	-1,236	-77.8%
特別損益	15	-84		
税金等調整前当期純利益	1,604	269	-1,335	-83.2%
税金費用	-389	-167		
実効税率	24.3%	61.9%		
少数株主利益*1	-57	-38		
当期純利益*2	1,158	64	-1,094	-94.5%
為替レート (ドル/円)	109.1	109.9	+0.8	
為替レート (ユーロ/円)	130.0	123.5	-6.5	

\*1: 非支配株主に帰属する当期純利益

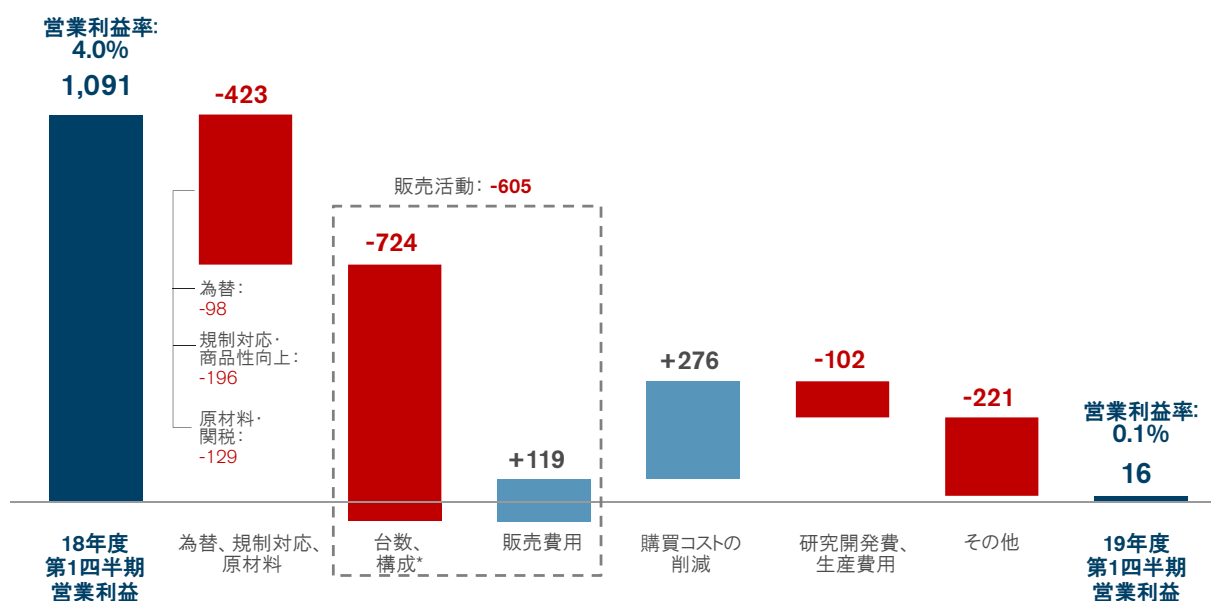
\*2: 親会社株主に帰属する当期純利益

# 2019年度第1四半期 財務実績

(東証届出値-中国合弁会社持分法ベース)

## 営業利益増減分析

(億円)



\* 台数減少に伴う販売費用の減少分を含む

# AGENDA

2019年度 第1四半期実績

 **事業改革について**

## 事業改革

リカバリープランの主な取り組み

1. 米国事業のリカバリー

2. 事業及び投資効率の適正化

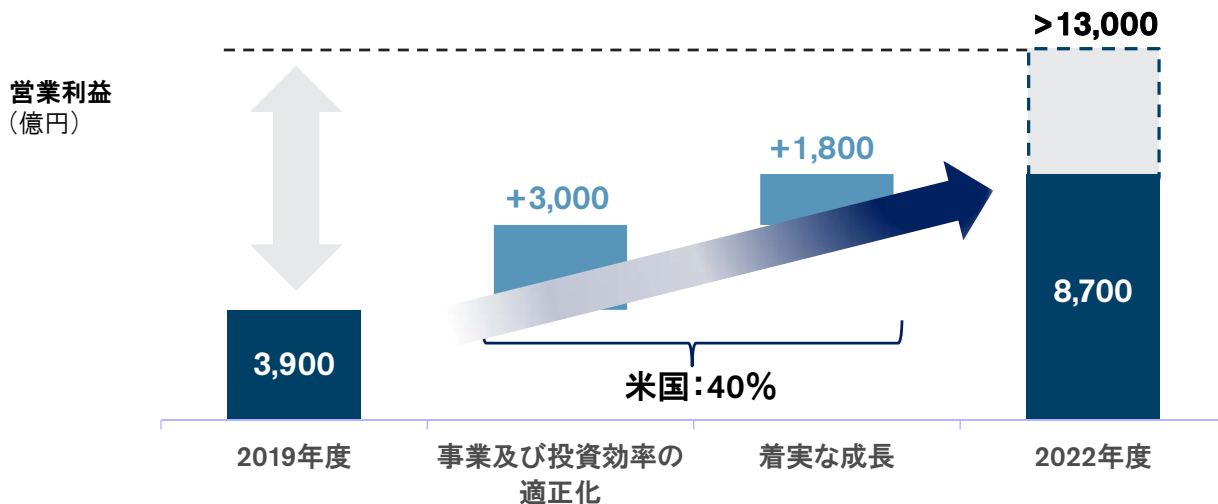
3. 新商品、新技術、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を軸にした着実な成長

# 事業改革

2022年度末までに6%台の売上高営業利益率を目指す

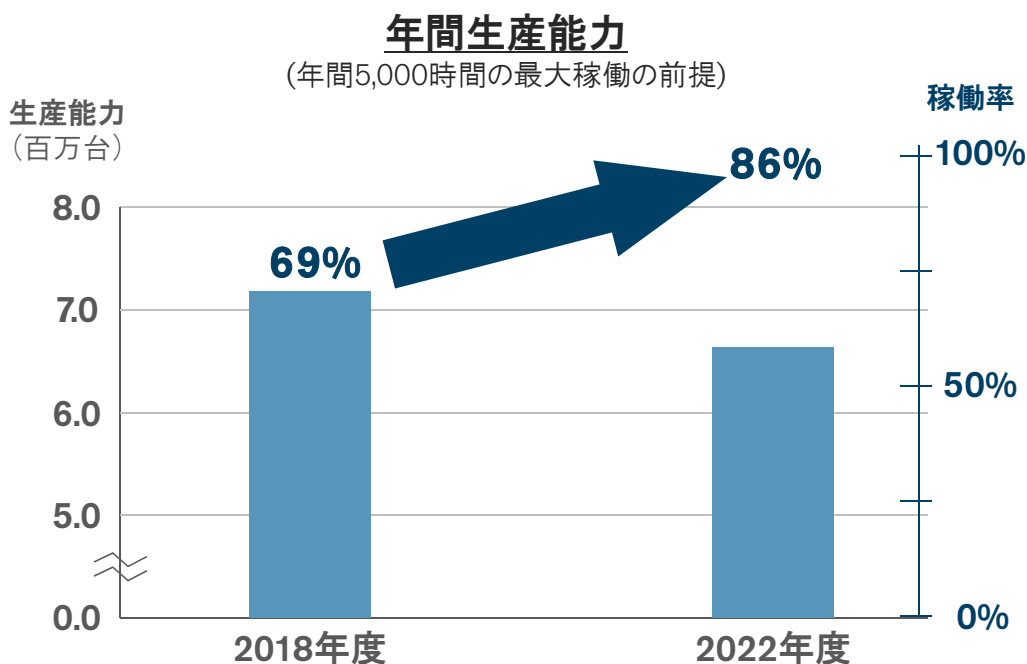
中国合弁会社比例連結ベース

売上高 (兆円)	13.0	<b>TRANSFORMATION</b>	16.5→14.5
営業利益率	3.0%		>8%→>6.0%



# 事業及び投資効率の適正化

生産能力の合理化



注: 生産能力及び稼働率には、アライアンスパートナーの工場における生産は含まれない

# 事業及び投資効率の適正化

## 生産ラインの効率改善

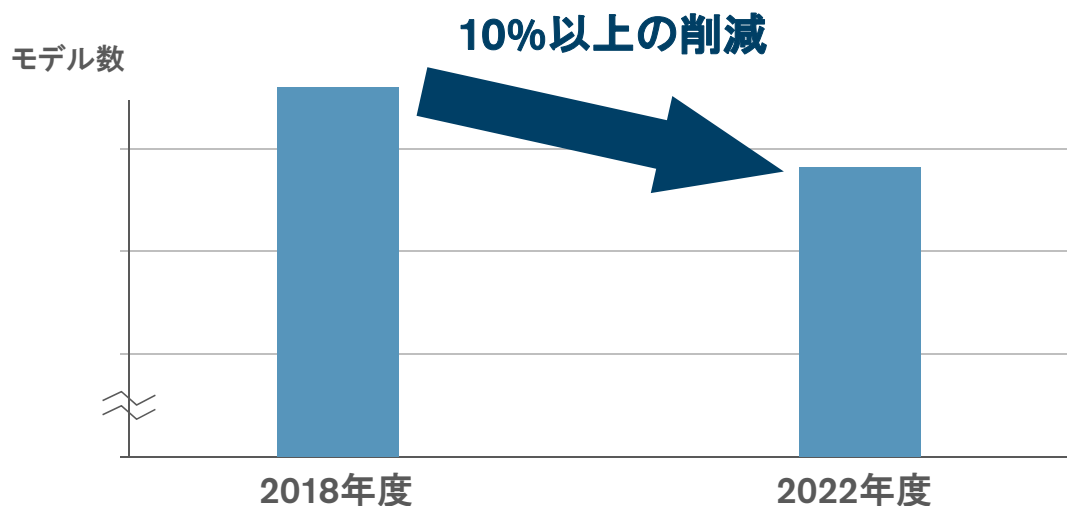
	国	削減人員数	タイミング
1	8拠点	6,400+	2018-2019年度
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9	合計	12,500+	2020年度から2022年度 の間に、追加で6拠点
10			
11			
12			
13			
14			

→ グローバルで10%の人員効率改善

# 事業及び投資効率の適正化

## 商品ラインナップの合理化

不採算商品の打ち切り

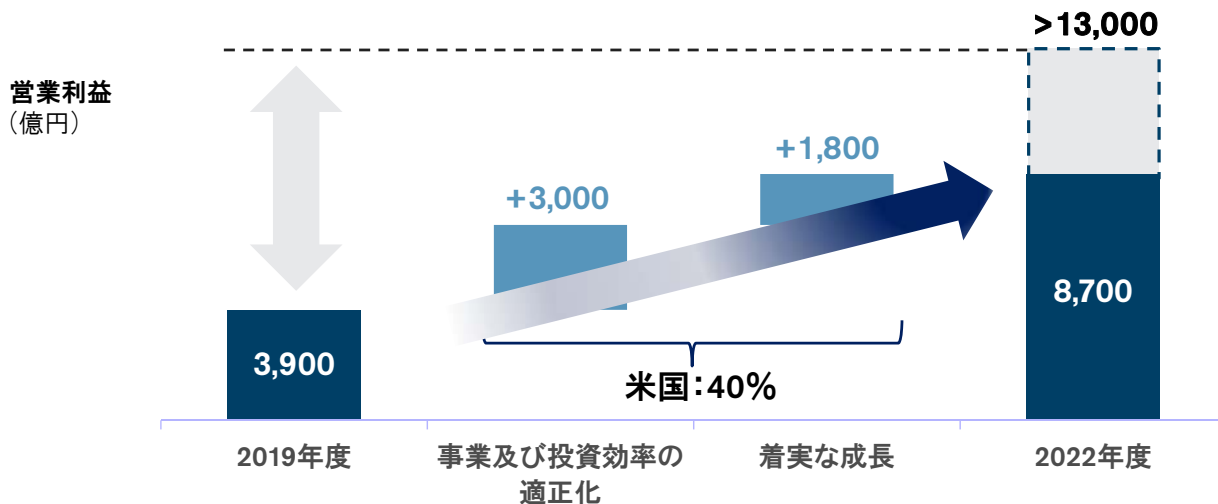


# 事業改革

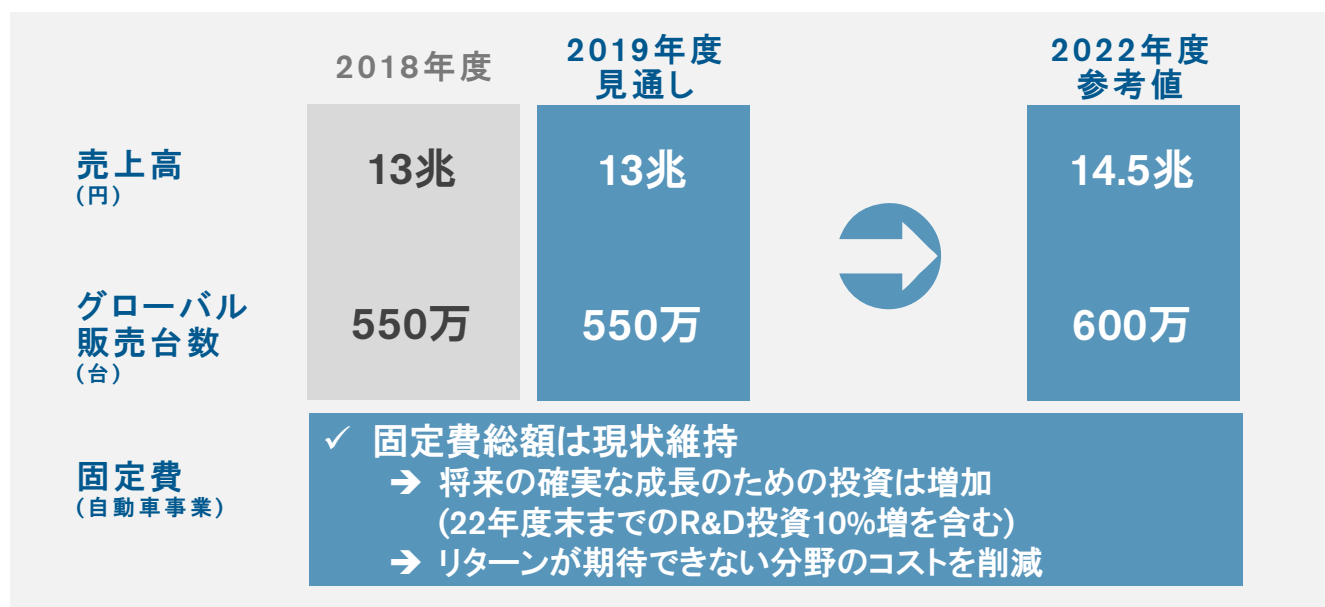
2022年度末までに6%台の売上高営業利益率を目指す

中国合弁会社比例連結ベース

売上高 (兆円)	13.0	<b>TRANSFORMATION</b>	16.5→14.5
営業利益率	3.0%		>8%→>6.0%



## 2022年度に向けて





# 新商品と技術

NISSAN INTELLIGENT MOBILITY

スカイライン



シルフィ



ヴェーサ



近日発表予定



# 今後の先進技術 将来に向けた取り組み

Zero Emission

新型クロスオーバーEV

(EV専用プラットフォーム、航続距離延長、四輪駆動)



軽自動車

e-POWER



High power



4WD

# 今後の先進技術 将来に向けた取り組み

<p>将来の運転支援 技術とその先</p>	<p>高速道路における アイズオフ機能</p> 	<p>一般道における 運転支援システム</p> 	<p>お客様への価値*</p> <p>仕事/レジャー/プライベート</p>  <p><small>*法規制や行政の指運に準ずる</small></p>
<p>プロパイロット 2.0</p>	<p>同一車線内での ハンズオフ機能</p> 	<p>ナビゲーションに 基づいた走行支援</p> <p>車線変更や分岐 追い越し</p> 	<p>3D高精度地図データ (HDマップ)やレーダー、 ソナーを活用したシステム</p> 
<p>プロパイロット</p>		<p>先行車両との 車間距離を一定 に保つ自動制御 システム</p>	 <p>車両が車線 中央を走行 するために必要 なステアリングの 操作を支援</p>

## 新規事業

NISSAN MOTOR CORPORATION



WAYMO



RENAULT NISSAN MITSUBISHI

# 2022年度とその先

19年度

22年度

XX年度

NISSAN M.O.V.E. to 2022  
with New Nissan Transformation

その先...

売上高 14.5兆 円	営業利益率 6%	
確固たる EVリーダーシップ	自動運転車両の 拡充	無人運転車両の 配車サービス事業 への早期参入

## 現在の中期計画の積み残された課題

- ✓ ブランド価値向上と信頼回復
- ✓ デジタイゼーション / トランスフォーメーション
- ✓ 品質 / お客さま視点

## 2022年度以降の競争優位性の確保

- ✓ CASE / ニューモビリティサービス - B2BからB2Cへの移行
- ✓ Industry 4.0 / データと人工知能
- ✓ 開発プロセスと競争力の強化等

将来に向けた活動を2019年度から開始

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいており、リスクと不確実性を含んでいます。従いまして、今後の当社グループの事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、為替の変動等により、実際の業績がこれらの記述と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。